



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2026

7月31日 号

213  
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

## 巻頭言

# 縮んで勝つことはできるのか



副会長 菅野 修一

先日、令和8年度福島県国保地域医療学会に出席し、特別講演では全国国民健康保健診療施設協議会名誉会長 小野 剛先生の「少子高齢化と人口減少社会における国保直診のありたい姿」を拝聴しました。講演内容は、今後、日本は人口減少社会へ移行し、患者も減少するため医療機関の運営はますます厳しさを増していき、診療所（クリニック）も後継者不足により減少していくということ、新たな地域医療構想策定ガイドラインが公表されたため、医療提供体制見直しなどが行われるというものでした。

令和8年7月上旬に2040年を見据えた「地域医療構想策定ガイドライン」が厚生労働省から公表されました。2040年には生産年齢人口が大幅に減少し、85歳以上の高齢者人口がピークを迎えると予想されています。人口構造が大きく変化していく中で、医療提供体制を再構築し、地域の医療ニーズに応じた柔軟な体制整備が求められてきます。また、医療機器の共同利用促進なども考えられます。福島県では第8次福島県医療計画の枠組みを維持しつつ、国の新しい策定ガイドラインに沿って地域の実情に応じた次期構想の策定・アップデートを進めています。

最後に小野先生の講演では「日本全体で少子高齢化と人口減少時代が進行し、地域は縮小傾向が進んでいる。人口が減っても地域住民のウェルビーイングが損なわれず、むしろ高まっていくようなスマートシュリンク（賢く縮む）を目指すべきである」と締めくくられています。誰しもウェルビーイング、単なる「健康」ではなく、身体的・精神的・社会的に良好な状態を目指し、自分らしく充実した生活を送りたいものです。地域の実情に見合った医科・歯科・介護・福祉の連携を推進し、生活の質（QOL）の向上を図ることができる地域包括ケアシステム構築が重要となるでしょう。

表題は、河合雅司氏の著書『縮んで勝つ 人口減少日本の活路』から引用しました。この著書では医師の偏在に関する内容などが書かれていましたので、ご興味のある方はご一読ください。

## 福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

### 福島医療放射線計測・防護研究会の発足と私の最近の研究について

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 福田 篤志

福島県の診療放射線技師のみなさま、こんにちは。今回は診療放射線科学科の福田篤志が担当いたします。大学が開学して5年が経過し、2期生も無事に卒業致しました。現在3期生が病院実習や就職試験等を通じて、先生方のお世話になっています。日々温かい御指導をいただいていることに、心より感謝申し上げます。

昨年の9月に第1回福島医療放射線計測・防護研究会を、私と医療放射線防護の専門家である広藤喜章先生で立ち上げました。本研究会の目的は、福島県内で診療放射線業務に携わっておられる先生方と、放射線計測・防護分野を通じて交流できる場を設けること、医療放射線計測・防護分野のゼミに在籍している学部4年生が、当該分野の研究について交流できる場を設けること、大学を卒業し、社会人1年目となった元ゼミ生達に、放射線計測・防護分野を通じて学んだ内容と社会人1年目の経験について交流できる場を設けること、そして最後に、福島県立医科大学にて実際に行っている最新の研究について、教員から紹介する場を設けることを目的としています。第1回福島医療放射線計測・防護研究会では、頭部CT撮影、胸部CT撮影、小児全脊椎撮影における被ばく線量をどのように解析したのか、4年生に発表していただきました。いずれも真摯に研究に取り組んでいる様子が分かる良い発表でした。教員からは広藤先生が「最新のDRLsの進捗」として、30分の講演を行ってくださいました。日本の診断参考レベル（DRLs）の確立に尽力されている先生であり、DRLsの紹介にとどまらず、活用法やその裏話等、とても興味深い内容でした。参加者は総勢30名であり、多くの方々に参加いただいたことに心より感謝申し上げます。今年も9月19日（土）15:00～18:00に第2回福島医療放射線計測・防護研究会を福島県立医科大学駅前キャンパスにて開催します。多くの先生方の御参加を、心よりお待ちしております。

私はこの数年、主として2つの研究に取り組んでいます。一つ目は、心臓血管撮影やX線透視検査における新しい放射線防護具の開発です。PCI、IVR等に従事する医療従事者の被ばくが多いことが知られており、多くの放射線防護具が設置、販売されているにも関わらず、効果的な活用がなされていないと言われてしています。この理由は、放射線防護具が臨床の手技を阻害する、というものです。この背景を受けて、株式会社保科製作所様と共同開発を行ったのが、Detachable Lead-containing Arm Support (DLAS) という、手台と放射線防護具を組み合わせた製品です。この製品では、取り外しができる鉛袋をL型のポリカーボネート板に装着して使います。臨床現場に応じてオーダーメイドでサイズの変更が可能であり、元々は手台ということもあって、臨床の手技を阻害しにくい製品となっています。血液が付着しても染み込まず、清拭が容易であること、破損しにくい構造・材質を採用していること、万一X線ビームがDLASに照射された際には、照射されたことが明らかとなるよう、格子状模様がX線画像に映し出されます。保科製作所様はデモ機を用意してくださっており、電話で申し込むと郵送で送ってくれるそうです。先生方の施設でも有効活用していただける製品となるよう、今後も改良を加えて参ります。



図1：株式会社保科製作所様と共同開発しているDetachable Lead-containing Arm Support (DLAS)

もう一つの研究は、新型面積線量計の開発です。面積線量計は心臓血管撮影装置等に搭載されていますが、大きな問題として、どのような角度から照射しても、総線量である参照空気カーマと面積線量しか得られないことから、血管撮影のように様々な角度から照射される際、患者皮膚面での被ばく線量の評価が困難であるという問題点がありました。そこで、トーレック株式会社と共同で、角度計測が可能となるジャイロセンサーを組み込んだ新型面積線量計の開発を行うことといたしました。この新型面積線量計は角度毎の参照空気カーマ、面積線量、照射野サイズを計測でき、これらの値を用いて、患者皮膚面における被ばく線量をリアルタイムで表示できます。先生方の施設においても、厚生労働省通知である医政地発0213第3号「病院等において把握すべき重大事象の類型化について」を鑑みて、カテーテル等の放射線被ばくに関する明確な基準線量を設定し、当該線量を超えた場合には術者に報告し、医療安全部門への報告をしていることと思います。新型面積線量計では、患者のどの場所に、どの程度の線量が投与されたのかを示すことができることから、術中において過剰照射を避けるよう角度を再考したり、術後の放射線皮膚炎の管理に有効活用したりすることができます。

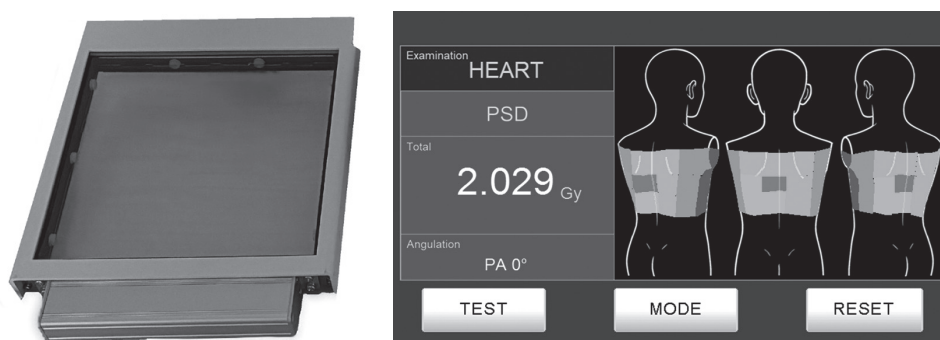


図2：トーレック株式会社と共同開発している新型面積線量計と患者皮膚面での被ばく線量表示

放射線計測・防護分野は、目に見えない放射線をいかに有効に、かつ安全に活用するか、という視点で考える分野です。患者のX線検査における入射表面線量や臓器線量を計測したり、検査室内の空間線量を計測したりすることで、検査・治療の最適化を目指すことができます。今後も福島県の先生方と医療放射線計測・防護分野の問題に取り組み、より安全な医療の構築に向けて尽力して参ります。今後とも御指導、御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## オンレコ

会長 鈴木 雅博

- ① 5月30日に会津地区協議会が中心となって「県定時総会」が開催されました。今年度は役員改選なく1期2年目の事業が承認されましたが、昨今の経済情勢により、コスト構造に大きな変化が生じており、今までと同じ事業継続が極めて困難な状況となっております。コスト削減など事業内容を見直し、事業計画への影響軽減を図りながら安定かつ満足いただけるサービスをご提供できるよう努めてまいりますので、何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。また、総会の準備・運営に多大なるご尽力を賜った総会運営委員・総会役員の皆様へ心より御礼申し上げます。
- ② 5月30日の定時総会に併せて、ワクチン筋注行為実技講習会を行いました。今後は、各地区のイベントなどに合わせて、福島県内（各地区）で講習会を実施していきます。受講には、事前に「ワクチン筋注行為に関するオンデマンド講習」を済ませて頂く必要があります。
- ③ 6月13日（土）に第89回公益社団法人日本診療放射線技師会定時総会が開催され、役員改選に伴う選挙が行われ新役員体制が発足しました。



- ④ 6月23日に令和8年度第1回福島県原子力防災通信連絡訓練を実施しました。
- ⑤ 6月30日に令和8年度福島県原子力防災訓練／第1回原子力災害医療活動訓練分科会（WEB）が行われました。今年度の原子力災害医療活動訓練は、10月2日、3日に南相馬市立総合病院で医療中継拠点設置運営訓練・原子力災害医療派遣チーム派遣実動訓練、11月28日（土）に広野町・小野町で住民避難訓練・甲状腺被ばく線量モニタリング実施訓練が行われます。会員からの参加をお願いいたします
- ⑥ 6月30日に公益法人として行政庁への報告義務である「POSS申請（事業報告）」の電子申告を行いました。
- ⑦ 7月2日に令和8年度第1回東北地域会長会議を行いました。JART委員会に関して継続して協議していくことになりました。
- ⑧ JARTホームページならびにJART情報システム（JARTIS）を全面リニューアルに伴い、JARTISは2026年7月14日（火曜日）から7月27日（月曜日）まで運用を休止致します。休止期間中は講習会のお申し込みや動画視聴を含むJARTISサイトの全サービスがご利用いただけませんのでご承知おきください。
- ⑨ 9月11日（金）～13日（日）に開催される第42回日本診療放射線技師学会大会（山形市）に向けて準備を進めております。参加申し込み・情報交換会の申し込みも始まっております。
- ⑩ JART側のシステム仕様上、個人情報変更（勤務先・苗字等の変更）の連絡が県に届かない状態になっています。当会からの配送物などで情報が誤っている場合は、お手数ですが県事務局へ連絡をお願いいたします。



## お知らせ

### 福島放技ニュース発行間隔の変更について

次回の福島放技ニュースより発行間隔が変更となり、今後は年4回の発行を予定しております。福島県診療放射線技師会に関する最新の情報は、（公社）福島県診療放射線技師会ホームページよりご確認くださいませようお願い申し上げます。

編集広報委員会委員長 久米本 祐樹



## 編集後記

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが、この213号がお手元に届く頃には夏本番を迎えている頃でしょうか。毎年「10年に一度の暑さ」と言っている気がします、今年も例外ではなさそうです。エアコンの効いた撮影室と屋外の気温差で体調を崩すことのないよう、こまめな水分補給と十分な休息を心掛けながら、この夏を乗り切りましょう。

皆さんにとって、仕事もプライベートも充実した夏になりますように。

（小澤）